

H28年度 市民クラブ行政視察報告書

1/3

市民クラブ 鈴木浩二

1.視察日

平成29年2月8日（水）～2月9日（木）

2.視察先及び内容

視察先	視察内容
兵庫県小野市	お出かけ見守りQRコードシール事業 自転車保険加入交付金について（資料配布のみ）
熊本県熊本市	生涯現役推進計画について 姫路城見学

3.メンバー

職名等	氏名	職名等	氏名
会長	佐原 充恭	議員	山内 智彦
事務局長	伊藤 幸弘	議員	中嶋 祥元
議員	鈴木 浩二	議員	黒川 智明

4.現地

小野市	姫路市
《研修会場》 	《研修会場》 
《所持品に添付するQRコード》 	《姫路城》 

視察の目的

高齢化が進む小野市（高齢化率26.6%）は、認知症での徘徊を課題と捉え、対象となる高齢者（認知症以外も含む）を対象に、事前に見守りが出来る仕組みづくりを進めた。事業費も安く、市民全体で徘徊する認知症高齢者を早期に発見する仕組みづくりを学び、刈谷市の高齢者施策の参考とする。

事業の経緯

小野市は全国平均以上に高齢化が進んでおり、認知症の症状がある方は、65歳以上の高齢者1万2600人のうち13%の約1600人を占めている。兵庫県では、地域全体をで支えるネットワークづくりを重視した取り組みを進める中、市内で認知症患者の行方不明が発生したことや、相談センターへの問い合わせなども多いこと、合せて全国的に認知症の方の徘徊での交通事故やJRの保障問題等を鑑み、行方不明になっても出来るだけ早く身元を確認することができる必要があると、QRコード付シールの配布を決めた。徘徊などに気が付いた人が、QRコードを確認。スマホなどでQRを読み取ると、市の連絡先が表示され、QRと同様に印字されている番号と合わせ、市が個人を断定でき保護できるという仕組みである。現在は、徘徊に気が付く人を増やす、その人達が適格に行動を出来るようにする為の教育や訓練を展開している。

事業の概要

- ・ QRコードをスマホで読むと、警察、市、地域包括支援センターなどの連絡先が記載され、“連絡をお願いします”と表示される。合わせて、個人番号が記載され、連絡を受けた側は、個人が識別できる仕組み。
- ・ 活用するためには、写真や個人情報など事前登録が必要であり、用紙は長寿福祉係で保管され、警察にも用紙コピーが保管される。登録された情報は毎年4月に確認し更新する。
- ・ QRコードシールにした理由は、①GPSなどと比較して安価である、②個人情報が漏れにくい、③大量の情報が記憶できる、④出かける際に、何を携帯するかが判断できず、靴や衣服などに張り付けることが安価であり、デザイン性を考慮する事ができる。などである。
- ・ この事業を進めるにあたり、①徘徊に気が付くか？②市民がシールの存在を知っているか？③QRコードを読み取る事ができるのか？などが重要であり、市として高齢者見守り模擬訓練や市内小学校4年生を対象とした、認知症キッズサポーター養成講座なども実施している。



所感

QRコードは、ツールとして効果的であるとは考えにくいですが、このようなツールを活用して、地域で徘徊者を早期に見つける、訓練や講座を通じ、市としての地域力を深める為の施策を展開することは大変重要である。

活動範囲が広域化した認知症患者の徘徊をサポートするためには、広域的に機能することが必要であり、他市との連携なども踏まえ、この事業を参考にし、早期に手を打つ必要がある。

認知症患者のみならず、高齢者がお出かけには常に携帯する、したくなる。そのような高齢者に与えられたものを持っていれば、市や民間でのインセンティブが得られるような、それにGPS機能があるなど。産業都市刈谷としての技術を活かした、特色のある施策なども考えて見たい。

2) 生涯現役推進計画について

3/3

視察の目的

姫路市が進める「姫路市生涯現役推進計画」は、日本人の平均寿命が平成26年には、男性80.50歳、女性86.83歳と人生も高齢期も長くなっている中で、心豊かに過ごし、質の高い生活を送る為に、①健康、②自立、③活動の要素の面で環境整備と意識啓発を図る具体的な取り組みがまとめられている。①高齢者が社会の担い手として活躍する事で、社会の活力の維持促進。②健康な高齢者がふえることで、医療・福祉関係のコストを抑制。③高齢者の社会参加により地域で受け継がれてきた歴史文化資産を継承、豊かな市民文化を醸成する事が期待されている。高齢者福祉計画同様に、介護を必要とする人以外の生涯現役に向けた計画を、あらゆる課で総合的に施策を推進し、専門部署を配置し一体的に管理する事は、極めて重要であり、姫路市に学ぶ。

事業の経緯

平成18年4月より生涯現役プロジェクトとして、平成21年度にスタートした総合計画に、新しい都市づくりを進める方策として「生涯現役社会の実現」が設定された。それを実現するための分野別の計画として、この計画が制定された。

計画は基本計画が平成22年度から平成32年までの11年間で、前期アクションプラン5年、後期アクションプラン6年で進められている。現在の後期アクションプラン策定にあたっては、更に高齢化が予測される中で、平成24年国の示す高齢社会対策大綱（人生65年時代⇒人生95年時代を前提とした）を前提とした、高齢者の捉え方の意識改革、働き方や社会参加、地域におけるコミュニティや生活環境のあり方などを踏まえ改訂した。

事業の概要

・生涯現役推進計画では、「健康」「自立」「活動」の3つの柱で構成されており、誰もが生涯に渡り、健やかで自立した生活を送りながら目的を持っていきいきと活動し、長寿により得られる豊かさを実感することの出来る社会を目指している。これにより、社会の活成化、社会保障費の減少、豊かな文化の継承と醸成の効果が得られる。

・施策の体系は、余暇の充実、社会参画、健康生活、環境整備、意識啓発の5つの大分類、それぞれに数点の中分類、更に小分類とで構成されており、毎年度更新されるアクションプランを作成し、市民、企業、市、関係機関からなる推進協議会でPDCAサイクルによる進捗管理がされている。又、その結果もホームページで公表されている。

・一体的な取り組みとする為、市長をトップとした関連する部局部会を3部会組織し、進行管理、連携強化に繋げている。

・事例説明では、市民向けに作成した生涯現役応援ハンドブックの中から、生涯現役推進室が担当する事業の説明を抜粋して受けた。健康な高齢者を対象とした事業がこのハンドブックで容易に確認できることは、刈谷市でも参考にしたい。

・事業の中で特に興味を持ち聞いた内容を下記に示す。

①高齢者バス等優待乗車助成事業（年8000円/年のバス、電車優待カード 75歳以上）

②生涯現役人材バンク（経験、技能を登録し能力発揮の機会創出 60歳以上）

③ニュースポーツ普及事業（普及するための活動の補助 15万円/1校区）

④めざそう生涯現役事業（生涯現役で活躍する市民をケーブルテレビで紹介 1日2回）

所感

多くの事業の中では、目標に対し効果が充分得られていないものもあるが、目標達成に向けて、事業の廃止やそれに代わる事業の追加などPDCAが回っている。今後の刈谷市の高齢化対策としての推進体系として是非、類似した形にすべきである。それぞれの事業を確認しても刈谷市で実施されていないような興味深い施策も20点近くあり、それぞれが、刈谷市では効果的かを検証し議会の中で提案して行きたい。

同日に見学した姫路城のガイドボランティアとしても高齢者の方が担当しており、培った知識や技能を活かし活躍できる場、自己有用感を味わいながら働いてみえた。こういった環境整備は重要であり、その為の高齢者の生涯学習への施策の重要性も認識した。